SCHUBERT:WINTERREISE

今仲幸雄リサイタル

ピアノ／マティアス・ペーターゼン

シューベルト作曲

冬の旅全曲

'88 9月17日(土)

岩手カトリックセンター 四ツ家教会

午後7時開演／¥2000

ごあいさつ●

代表
盛岡バッハ・カンタータ・フェライン
木村 吉彦

本日は、お忙しいなかようこそおいで下さいました。

私共カンタータ・フェライン主催の室内楽演奏会も今年で3年目になりました。一昨年の「鈴木雅明チェンバロリサイタル」、昨年の「ムジカ・デラルテ・トウキョウ／バロック音楽の夕べ」と、第一線の演奏家を迎えてのあのさわやかな感動と快い興奮とは、記憶にまだ新しいところであります。そこには、演奏する者と聴く者とが一体となってひとつの「音楽」を分かち合うという幸福な時間がありました。過去2回のこのような体験から、地方にあって本格的な音楽芸術を満喫する機会をもつことがいかに貴重なことであるかを確信した次第です。

今回は、国際的に活躍されているお二人の演奏家をお招きし、演奏会を催すはこびとなりました。世界的なバリトン歌手今仲幸雄氏と今仲氏の無二のパートナー、マティアス・ペーターゼン氏が西ドイツからかけつけて下さいました。とりわけ今仲氏とは、一昨年の第1回西ドイツ演奏旅行以来おつきあいをいただいております。今仲氏の敬虔でかつ包容力のある、まさに「ハートフル」な歌声に再び出会うことができますことを、聴衆の一人として心待ちにしているところです。

ここ盛岡にありながら、本場のドイツ歌曲に接する機会に恵まれましたことを皆様とともに喜びたいと思います。

それでは、ごゆっくりお楽しみ下さい。

PROGRAM

プログラム●

シューベルト作曲
歌曲集「冬の旅」

バリトン 今仲幸雄
ピアノ マティアス・ペーターゼン

Gute Nacht	おやすみ
Die Wetterfahne	風見
Gefrorne Tränen	凍った涙
Erstarrung	氷結
Der Lindenbaum	菩提樹
Wasserflut	増水
Auf dem Flusse	川の上で
Rückblick	かえりみ
Irrlicht	鬼火

●真(まこと)の歌手——今仲幸雄さん

佐々木 正利
岩手大学助教授・声楽家

『冬の旅の詩の内容は、悲しみと絶望です。キリストにあって喜びと希望とをもっている私には、初めはどうしても歌えませんでした。しかし、希望に至るプロセスとして、人間は悲しみを体験していくのだ、と思うのです。その意味でも、私は絶望の先の「神にある希望」を意識して歌いたいと思っています』とは今仲さんの告白。

今仲さんとのお付き合いは長い。古くは18年前、芸大寮にてバッハを語り合った日々。そして10年後、ライプツィヒでの再会。今仲さんの歌はD.F.ディースカウのようだった。太く、強く、ガナリたてるだけの日本人バスには全くみられなかった別タイプ。正にグローバルな歌手である。その歌にいたく感銘し、氏のお世話でデットモルトに学ぶことになる。そこで本当の今仲さんに出合った。彼の歌の原動力を、日々の誠実で力強いキリストへの証しに見い出し、導かれて私もクリスチャンとなった。本当に感謝している。

デットモルト音大の講師を務めながら、世界各地に請われて演奏しに出かけていく今仲さんの姿は日本人の誇りであり、憧れである。その深い洞察力、強弱のみならず声の色をも使いわけられる巾広いテクニックを兼ね備えた歌手は世界広しといえどもそう多くはいない。その歌を、今こうして日本の音楽仲間と聴けること、心からの喜びでいっぱいである。

Winterreise

Rast	休息	Der stürmische Morgen	嵐の朝
Frühlingstraum	春の夢		
Einsamkeit	孤独	Täuschung	幻
Die Post	郵便馬車	Der Wegweiser	道しるべ
Der greise Kopf	白い頭	Das Wirtshaus	宿屋
Die Krähe	鴉	Mut!	勇気を!
Letzte Hoffnung	最後の希望	Die Nebensonnen	幻日
Im Dorfe	村にて	Der Leiermann	ライアー回し

PROFILE

プロフィール●

●バリトン●

今井 幸雄

1949年、成田市三里塚生れ。東京芸術大学音楽学部声楽科卒業。渡辺高之助、小林道夫、高折続各氏に師事。1976年西ドイツ・国立デットモルト北西音楽大学留学、ヘルムート・クレッチマール、ハンス・クールマン、ディートリヒ・フィッシャー＝ディースカウ各氏に師事。1978年オーストリア・ウイーン国際シューベルト・ヴォルフ歌曲コンクール、ディプロマ賞受賞。1980年東ドイツ・ライプツィヒ第6回国際バッハコンクール男声部門優勝。同年成田市文化功労賞受賞。1981年国立デットモルト北西音楽大学卒業、西ドイツ演奏家国家試験最優秀合格。以来、西ドイツ、東ドイツ、スイス、フランス、イタリア、イギリス、オランダ、シンガポール、台湾にて演奏活動。またライプツィヒ国際バッハ音楽祭、ゲッティンゲン国際ヘンデル音楽祭、ヴァルスローデ国際リスト音楽週間にソリストとして招かれる。ＮＨＫはじめ、ＮＤＲ(北ドイツ放送)、ＳＦＢ(ベルリン自由放送)、ＷＤＲ　Ⅰ・Ⅲ(西ドイツ放送第一、第三)、ＳＷＦ(南西ドイツ放送、テレビ)、ＥＲＦ(ドイツ・キリスト教放送)等に出演。ドイツ・バッハゾリステン、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス・バッハオーケストラ、北ドイツ放送管弦楽団等と共演。オラトリオ・リート歌手として、バロックから現代曲までのレパートリー。現在西ドイツ・デットモルト在住。国立デットモルト北西音楽大学講師。

●ピアノ●

マティアス・ペーターゼン

1954年、西ドイツ・ハンブルク生れ。音楽教育のほとんどをハンブルクにて受ける。ハンブルク音楽大学にて、ペーター・ハルトマン教授のもとでピアノを学ぶ。1976年最優秀にて同音楽大学ピアノ科卒業。その後スイス・バーゼル音学院マイスタークラス入学。ルドルフ・ブッフビンダー教授の指導を受け、1978年ソリスト・ディプロマを獲得、同音楽院を卒業。学生時代より独奏、リート伴奏、室内楽の演奏活動を始めた。これまでに西ドイツ国内及びスイス、スペイン、デンマーク、南アフリカ各国にて、多くのコンサートに出演、絶賛を博した。1979年1980年には、北ドイツ放送主催「若者のコンサート」に選出され、西ドイツ国内各地を、40回にわたる演奏旅行をして好評を得た。特筆すべきこととして、内外の知られざる名曲を再初演している。例として、プゾーニ作曲・ファンタジア・コントラプンティスティカ及びソナチネ・セコンダ、ユリウス・ロイプカ作曲・ロ短調ソナタ、ヘルマン・ゲッツ作曲・ピアノのための室内楽、ハインリヒ・ツォーゲンベルク等の数々の小品があげられる。リューベック音楽大学・ハンブルクコンセルバトアールにて教鞭をとった後、1983年より国立デットモルト北西音楽大学講師。

●曲目解説

●歌曲集「冬の旅」D911

小原 一穂
盛岡バッハ・カンタータ・フェライン・コンサートマスター

シューベルトの全作品を通じ、また全ての芸術歌曲の中でも最高の傑作と目される「冬の旅」は、彼のもう一つの歌曲集「美しき水車屋の娘」より4年遅れて1827年に作曲された。といっても、この歌曲集は一時に24曲全てが作られたわけではない。はじめシューベルトは1823年版の小雑誌〝ウラーニア〟第5号の中に「お休み」から「孤独」までの12篇の連作詩を見つけ12曲のリートとして完結させた。詩は「水車屋」と同じデッサウ生れの詩人ミュラーによるものであった。その後ミュラーの増補された完全な連作詩が収められた『ヴァルトホルン吹きの遺稿より』第2集を手にしたシューベルトはさらに12曲を追加し2部24曲から成る連作歌曲集として完成させたのである。そういう事情から、「冬の旅」の曲の順序は本来のミュラーの連作詩とは違ったものになっている。それにも拘らず、24曲の並びが不自然に感じられないのはこれらの詩の内容が「水車屋」のようにストーリー性を持つものではなく、現在と過去を彷徨し現実と夢想が錯綜し続ける主人公の内面を抽象的に表出しているからであろう。ドイツの音楽学者W・デュルはこの構成について「外から内に向かう道程、現実の世界から非現実の世界へ向かう道筋」が螺旋状に進行していると指摘している。シューベルトの音楽は旋律の上では1語1語のニュアンスと密接に結びつきながら自在の動きを見せているが、その伴奏は、微妙な陰影と心理的深みに富んでいる。ブルーメの言う「流麗な推移」(flussiger Wechsel)がここでは負のエネルギーを持ってさすらい続けているようだ。

こうした陰鬱かつ索寞たる若者の内面世界にはシューベルト自身の魂が投影されているといわれる。しかし未だ20代後半の人間があれ程の象徴性を伴った終焉に向って自己の感性を導いていくというのは現代の我々の感覚ではちょっと信じ難い。当時の神聖同盟が示す政治的反動から来る不安定な社会状況の影響、まもなく生命をも奪い去ってしまう病苦、並み大抵でない貧窮等様々な要因がボヘミアンと呼ばれるシューベルトの音楽的精神を暗く絶望的な境地へと追いやったと考えることもできるだろうが、25歳の7月に書かれた彼自身の文章「僕の夢」(Mein Traum)を見るにつけ、その稀有なる天才性が故に、内面的苦悩をして自分の行先を「辻音楽師」の中に究極的に凍結させてしまったように思えてくるのである。

「…長い年月、僕は歌を歌った。愛を歌おうとした時、愛は苦しみになった。そして苦しみを歌おうとすると、苦しみが今度は愛になるのだった。愛と苦しみとは、こうして僕を2つに裂いた。…」

団員募集

盛岡バッハ・カンタータ・フェラインは、主としてバッハの教会カンタータを演奏する事を目的として結成され、今年で11年目を迎えます。これまで、バッハの教会カンタータを中心とした演奏会を多数開催、一昨年には初の海外演奏旅行を行いました。

只今、会員を募集しております。合唱経験の有無、個々のレベルは問いません。合唱が好き、音楽が好き、という方、大歓迎！　私達と一緒に歌いましょう。バッハの音楽は決してかた苦しいものではなく、人間味にあふれ、時を越えて私達の心に語りかけてきます。

どうぞお気軽に練習会場においで下さい。

●練 習 日　毎週火曜日ＰＭ６：30～９：00
●会　　場　カトリック志家教会礼拝堂
●練習曲目　Ｊ．Ｓ．バッハ　モテット２番、５番
　　Ｈ．シュッツ　マグニフィカト他
●連 絡 先　木村吉彦　41―1507

主催／盛岡バッハ・カンタータ・フェライン　(0196)41―1507・木村
後援／岩手県教育委員会、盛岡市教育委員会、岩手放送㈱、テレビ岩手㈱、
　　エフエム岩手㈱、ＮＨＫ盛岡放送局、東山堂楽器店